

## 吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワークの取組の現況

## 1. 生息環境づくり

## (1) コウノトリ

コウノトリの生息環境づくりの展開方法	取組状況	
<b>① コウノトリの採食地の保全・創出</b>		
【河川】 ■河道掘削による浅場・湿地の創出 <b>優先</b>	・旧吉野川での治水事業と合わせた自然再生（コウノトリの採食環境にも資する湿地の再生）の検討を、「鳴門地区生息環境づくりワーキング」で進めている	
【ため池】 ■冬期の水位調節による浅場の確保	—	
【農地、休耕地】 ■ハス田・水田・畑で農薬・化学肥料を低減 <b>発展</b>	■河川・水路とハス田・水田をネットワークする魚道の設置 <b>発展</b>	・「コウノトリおもてしれんこん」の生産以前から農薬や化学肥料を減らした環境にやさしいれんこん栽培が行われている。「コウノトリおもてしれんこん」は農薬、化学肥料を50%減らして生産されている
	■水田の端に通年湛水する溝（江）の設置	—
	■水田の中干し延期	—
	■冬みず田んぼ	—
	■休耕地の通年湛水によるビオトープづくり <b>発展</b>	・コウノトリ定着推進連絡協議会により、営巣地付近で2箇所のビオトープが整備されている
【遊休地等】 ■飛来地周辺での「水域ビオトープ」の創出	—	
<b>② コウノトリの巣やねぐらの保全・創出</b>		
■人工巣塔の計画的配置 <b>発展</b>	・徳島県とコウノトリ定着推進連絡協議会により、鳴門市大津町に人工巣塔が設置された	
<b>③ コウノトリへの人による悪影響の緩和</b>		
【河川】 ■河川パトロールの際の状況確認 <b>優先</b>	・徳島河川国道事務所が河川パトロールの際に河川でのコウノトリの飛来状況等を確認している	
【営巣地周辺】 ■来訪者の接近や車両乗り入れ自粛の要請 <b>発展</b>	・コウノトリ定着推進連絡協議会や鳴門市により、コウノトリの観覧マナーを啓発する看板の設置が行われている	
	■来訪者用駐車場の確保 <b>発展</b>	・コウノトリの営巣地周辺で来訪者用の駐車場が数か所確保されている
【農地・休耕地】 ■接近の自粛要請 <b>発展</b>	・コウノトリ定着推進連絡協議会や鳴門市により、コウノトリの観覧マナーを啓発する看板の設置が行われている	
	■銃猟自粛、特定猟具使用禁止区域（銃器）への編入の検討 <b>優先</b>	・徳島県により、コウノトリ営巣地周辺490haが「鳴門コウノトリ（希少鳥獣生息地）鳥獣保護区」に指定されている
	■電線地中化等の検討	—

※**優先**：「既に検討が始められている」「比較的短期間で実施可能」「効果が大きい」ことから、新たに優先的な実施が期待される取組

※**発展**：既に一部で実施（平成30年度時点）されており、実施結果等を参考に、範囲や対象の拡大等の発展が期待される取組

(2) ツル類

ツル類の生息環境づくりの展開方法	取組状況
① ツル類の採食地の保全・創出	
【河川】 ■食物となる植物が多い草地の創出	—
【ため池】 ■冬期の水位調節による浅場の確保	—
【農地・休耕地】 ■稲刈り時の一部刈り残し <b>優先</b>	—
■稲刈り後に耕してすき込む秋耕を控え、二番穂や落穂を確保 <b>優先</b>	—
■水田・畑で農薬・化学肥料を低減 <b>発展</b>	・徳島県により、農薬や化学肥料の使用量を減らした農業を行うエコファーマーの認定が行われており、徳島市では累計81人(平成31年3月時点)、鳴門市では累計164人(平成29年3月時点)のエコファーマーが認定されている
■水田の端に通年湛水する溝(江)の設置	—
■水田の中干し延期	—
■冬みず田んぼ	—
■休耕地の通年湛水によるビオトープづくり	—
② ツル類のねぐらの保全・創出	
【河川】 ■砂州地形を利用した安全なねぐらの地形の確保 <b>優先</b>	—
■樹木伐採等によるレキ河原の保全・再生 <b>発展</b>	・レキ河原の保全・再生の取組を続けている
■河道掘削の際の水辺のなだらかな連続性の確保と湿地の創出	—
■ナルトサワギクの防除による干潟環境の保全 <b>発展</b>	・吉野川の河口干潟で、特定外来生物のナルトサワギクの防除を続けている
【ため池】 ■冬期の水位調節による浅場の確保	—
③ ツル類への人による悪影響の緩和	
【河川】 ■河川パトロールの際の状況確認 <b>優先</b>	・徳島河川国道事務所が河川パトロールの際に河川でのツル類の飛来状況等を確認している
■人や車両の立ち入り自粛の要請看板の設置 <b>優先</b>	—
■車両の立ち入り制限 <b>優先</b>	—
■砂州での砂利採取による影響の軽減	—
■接近の自粛要請 <b>発展</b>	・(公財)日本野鳥の会により、ツル類の越冬地の復元・保全のため、国内の主要な渡来地がある11県(徳島県含む)で、ツルが飛来した場合の協力を呼びかけるチラシ、ポスターが狩猟登録者や住民、行政等へ配布された
■銃猟自粛、特定猟具使用禁止区域(銃器)への編入の検討 <b>優先</b>	—

※**優先**：「既に検討が始められている」「比較的短期間で実施可能」「効果が大きい」ことから、新たに優先的な実施が期待される取組

※**発展**：既に一部で実施(平成30年度時点)されており、実施結果等を参考に、範囲や対象の拡大等の発展が期待される取組

## 2.地域・人づくり

地域・人づくりの展開方法	取組状況
<b>農業振興</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■農産物のブランド化の推進 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■農作物の販売拠点の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳴門市により、「鳴門市コウノトリブランド認証制度」が導入され、コウノトリの生息に配慮して生産された農産物のブランド化の推進が行われている</li> <li>・2019年8月にJA 大津松茂の農産物直売所「えがお」が鳴門市大津町に開設された</li> </ul>
<b>観光振興</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■コウノトリ・ツル類を活かしたエコツアーの商品化 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先</span></li> <li>■コウノトリ・ツル類を活かした物産品の開発 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■コウノトリ・ツル類の観光パンフなどへの利用 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■エコツアー拠点の整備</li> <li>■コウノトリが見えるサイクリングロードの設定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鳴門地区地域・人づくりワーキング」で検討を進め、2019年12月1日にモニターツアー「鳴門コウノトリれんこん教室」を行った</li> <li>・（一社）鳴門市うずしお観光協会により、コウノトリを活かしたツアーとして「お遍路体験とコウノトリ見学」が企画・販売されている</li> <li>・JA 徳島北により、「コウノトリおもてなしれんこん」の加工品の「れんこん葉茶」が製造され、空港や産直等で販売されている</li> <li>・鳴門市により、市の観光ガイドブックにコウノトリが紹介されている</li> <li>・板東地区自治振興会により、板東地区を紹介する「BANDO てくてく MAP」にコウノトリの観察ポイントが紹介されている</li> <li>—</li> <li>—</li> </ul>
<b>活動資金の調達</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ガバメントクラウドファンディングの実施 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■交付金等の活用</li> <li>■助成金等の活用 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■取組応援型金融商品の開発</li> <li>■利益の一部を生息環境保全や産業振興に還元する仕組みづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳴門市により、2017年10～12月にふるさと納税の仕組みを活用したガバメントクラウドファンディングを実施された</li> <li>—</li> <li>・コウノトリ定着推進連絡協議会とNPO法人とくしまコウノトリ基金の取組に、助成金が活用されている</li> <li>—</li> <li>・NPO法人とくしまコウノトリ基金により、商品やサービスの売り上げ金の一部が、コウノトリの野生復帰の取組に寄付される仕組みが始められている</li> </ul>
<b>理解と関心の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■子どもたちへの環境学習の場や機会の提供 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■観察会、学習会の実施 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■情報発信の充実 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■「アドプト・プログラム吉野川」の生息環境づくりへの拡大展開 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■シンポジウムの実施 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> <li>■水鳥と鳥インフルエンザの関係性や対応策の周知 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先</span></li> <li>■調査、モニタリングへの参加を通じた関心の向上 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先</span></li> <li>■営農者への啓発 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発展</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コウノトリ定着推進連絡協議会やNPO法人とくしまコウノトリ基金により、親子を対象とした環境学習が行われている</li> <li>・コウノトリ定着推進連絡協議会やNPO法人とくしまコウノトリ基金により、コウノトリ等の観察会が行われている</li> <li>・コウノトリやコウノトリが生息する環境について、地域資源としての可能性を探ることを目的に、現場学習会を開催した</li> <li>・テレビ（四国放送等）でコウノトリ関連の内容が放送されるとともに、新聞（徳島新聞等）にコウノトリ関連の記事が掲載されている</li> <li>・コウノトリ定着推進連絡協議会やNPO法人とくしまコウノトリ基金により、ウェブサイトでコウノトリの飛来情報や関連する取組、イベント等の情報が発信されている</li> <li>・「アドプト・プログラム吉野川」で清掃・美化活動が行われている。「アドプト・プログラム吉野川」の参加団体数は137団体、登録人数は13,735人（2019年10月31日時点）。対象河川は吉野川、旧吉野川、今切川及び、吉野川の支流の正法寺川、伊沢谷川、大久保谷川、河内谷川</li> <li>・2019年3月14日に「江崎保男博士「山階芳麿賞」受賞記念シンポジウム～コウノトリが舞う地域づくり～」が開催された</li> <li>—</li> <li>・コウノトリ定着推進連絡協議会の指導を受けて、2018年に大麻中学校の自然観察チームにより営農地周辺の水路やハス田での生物調査を実施された</li> <li>・コウノトリ定着推進連絡協議会により、営農地周辺の営農者にステッカーをつけてのパトロールの協力依頼や、営農者からほ場を借りてビオトープの整備等が行われている</li> </ul>

※優先：「既に検討が始められている」「比較的短期間で実施可能」「効果が大きい」ことから、新たに優先的な実施が期待される取組

※発展：既に一部で実施（平成30年度時点）されており、実施結果等を参考に、範囲や対象の拡大等の発展が期待される取組